

記憶を思い起しながらの大阪港の渡しwalk by Mutsu Nakanishi

【記録 Photo】 大阪港の渡しwalk

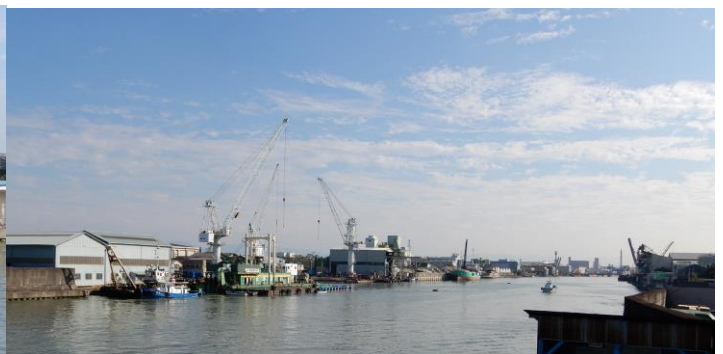
2017.10.27.

大阪湾に注ぎ込む幾つもの川の河筋に発達した大正内港など大阪の北港
その川筋をトラバースする生活道路として 今も市民の足として現役の渡し・渡船場
地名の記憶にはあるのですが、もう何十年も前…
ふっと思い立って 大阪港の川筋にある渡し(渡船場)巡りをしました

東北側 大正内港 背後に生駒山がかすむ手前 千歳公園 右端にアベノハルカスが遠望



2017.10.27. 大阪北港の渡し巡り 尻無川河口 大正内港に架かる千歳橋より周辺を眺める



大阪の街は淀川の河口に発達したいくつもの島や砂洲の上に発達した町。

高度成長期に沖に南港の人口島が造成されるまでは、港も工場もみんな河口から奥へ川岸に沿って広がり、川筋をトラバースするため、川筋にはいくつも渡し場がありました。この渡船は道路の一部なので、公営で無料で人と自転車が通行できる。

大きな橋がいくつも建設され、バス・地下鉄ができた現在も、対岸へ渡るには公共交通や橋を渡るより渡りで渡るのが一番の生活手段である事情はかわらない。



地図を見ると船が横付けされる工場群が川筋に並び、おいそれと橋が架けられず、高所を渡ってゆく橋を見上げれば、船の渡しの方がはるかに早く便利なのです。

自転車も一緒に乗れる渡しは通勤・通学・買い物そして近年は観光にも。



私にとってはいつも頭の片隅にしまいおかれている場所。

大阪市に勤めていた父が、退職後2度の勤めで通ったのが、大正橋の木津川沿岸で仕事する小さな会社の集まりの協同組合で、「大正橋」「三軒家」「泉尾」「天保山」「築港」・「安治川」「市岡」「野田阪神」「九条」などの大阪港周辺の地名には今も親しみを感している。でも、その大半には名前ほど街中を意識して歩いたことがない。

また、大阪港の渡しには何度となく連れて行ってもらったが、その場所についての記憶もほとんどない。

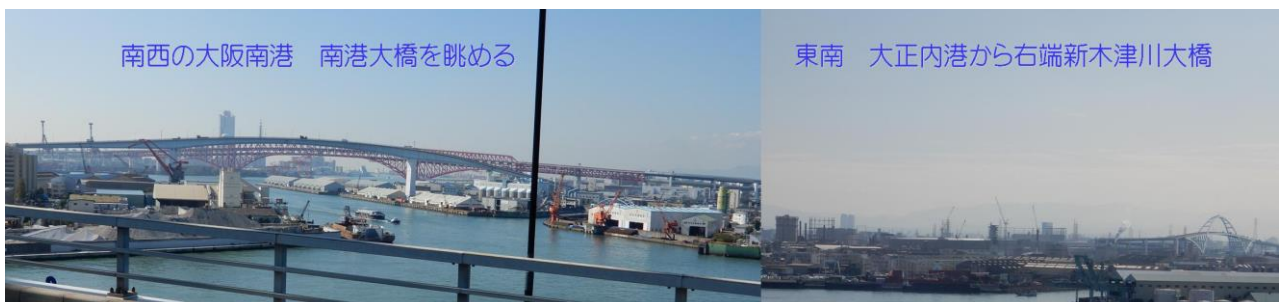
みんな遠い小さなときの記憶で 名前・地名ほどにははっきりした記憶はない。

また、大学4年の夏現場実習で日立造船・築港工場に約1ヶ月通ったのですが、そのすぐ横にも船町の渡船場がありました。

インターネットで、大阪港の渡しのマップを見つけ、地図を引っ張り出して、今も残っている大阪港の渡し並びに港の街歩きをやってみたくと地図に 「自分の記憶を呼び起す大阪港の渡し巡りのコースを作りました。

大阪港の渡し巡りの WALK 快晴になった10月27日の朝 神戸を出て阪神電車なんば線に乗り、スタートに決めた JR 西九条駅へ。 一日大阪港の渡し場巡りで撮った大量の渡船場周辺の Photo。

またどこかで記憶を呼び起す材料になればと独りよがり的大阪港の渡し walk の photo album のファイルです。



神戸から阪神なんば線で西九条駅で USJ 人気の路線JRゆめ咲線終点の桜島駅下車 桜島駅から大阪港の渡しwalkをスタート

JR桜島駅 → 安治川天保山渡船 → 尻無川甚平渡船 → 尻無川河口北港千歳渡船 → 木津川運河船町渡船
→ 船町から市バス北側の恩加島へ戻る → 木津川落合下渡船(往復) → 木津川落合上渡船(往復) →
→ 大正通・泉尾からバスで北の三軒家経由JR大正駅

大阪港にはほかに

◆船町から木津川河口を渡る木津川渡船 ◆南恩加島から西成へ木津川を渡る千本松渡船
2つの現役渡船場も残っているが、今回は尻無川と木津川に挟まれた大正区の街中も歩きたくて、
パスしました。

大阪港渡船場巡り 2017.10.27.
現在も「道」として地域の足

此花区
 天保山渡
 JR松島
 JR西九条
 JR大正
 難波
 基平渡
 千歳渡
 千本松渡
 船町渡
 木津川渡
 落合上渡
 落合下渡
 大阪市
 地下鉄中央線
 地下鉄東横線





桜島(此花区)側 天保山渡船場前 2017.10.27. 10:31



対岸 橋の向こう側が天保山(港区)の船着き場 また、その横天保山の栈橋には 日本丸・海王丸2隻の帆船が停泊。大阪港も開港150年のイベントが行われていました

安治川河口 桜島(此花区)側、天保山渡船場 2017.10.27.



10:30発の渡船がちょうど迎えて到着 乗船するとすぐ出発でした



渡船に乗って 安治川の対岸 天保山栈橋・海遊館を眺める 2017.10.27.



渡船に乗って 安治川河口の出口 南側南港方面 2017.10.27.



安治川河口南側 天保栈橋から南港



安治川河口 北の上流側 対岸の桜島側



安治川河口北の上流側の上流側 大阪の市街地を眺める



天保山の渡船場 2017.10.27.



港区側



【2】 明治から昭和 外航船が接岸できる海港 埋め立てで建設された大阪港 大阪築港「天保山」

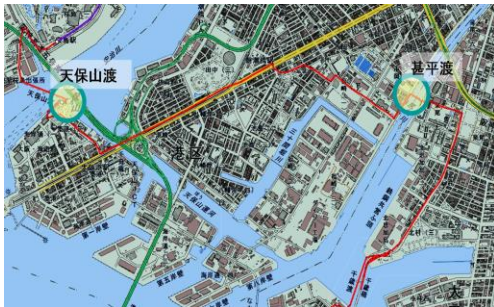


◎開港150年記念停泊中の日本丸・海王丸 ◎かつて日本一低い山として国土地理院の地図に掲載された天保山

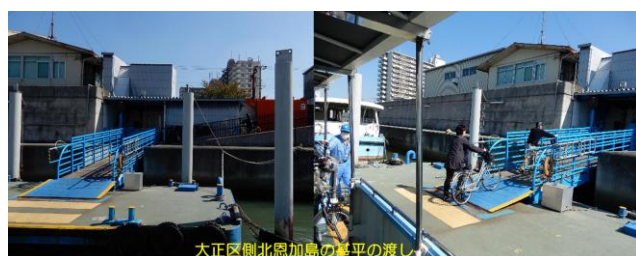


【3】 天保山から港大通りを北へ 港区中央の街を歩いて朝潮橋から東へ尻無川渡船場へ



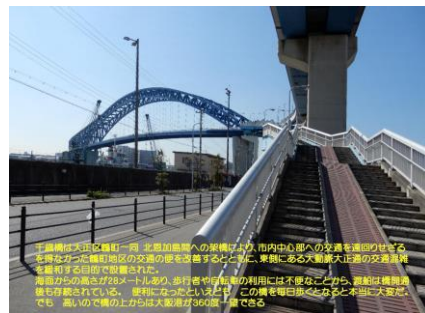


【4】尻無川の甚平渡船場 尻無川を東に渡って大正区北恩加島へ
そこから南へ町中を抜けて 北恩加島の南西端 千歳橋の袂 千歳渡船場へ





【5】千歳渡船場の横から 同じく南の鶴町へ安治川の河口を渡る大きな千歳橋の歩道を歩く 非常に高い場所を渡る橋 生活道路として使う困難さの体験と大阪港の内向を高所から眺める





【6】北恩加島の千歳渡船場から尻無川の河口・大阪港大正内港を南の鶴町へ渡る そこから鶴町の街を南へ歩いて、木津川運河を南の船町へ渡る船町渡船場へ





北恩加島から南へ京新川河口を南へ渡った鶴町側千歳渡船場 2017.10.27. 13:05
すぐ上の画像を千歳渡船場から撮った。やっぱり、この高い橋を渡るのは大変だ



鶴町側千歳渡船場横から 今渡ってきた眺めた大阪北港(内港) 2017.10.27.



鶴町側 千歳渡船場 2017.10.27. 13:03



鶴町側千歳渡船場から南の船町へ木津川運河を渡る船町渡船場へ

次の船町渡船場へは鶴町の市街地を南へ抜けてゆく。途中コンビニに入って、握り飯と水を買ってばくつきながら歩く。南港地区を除けば、大阪港の一番南の場所である。都心からずいぶん離れているとの感覚なのですが、地図を見ると難波に近い。多くの人が港と共存して暮らしているのだと。ひっきりなしにバスが追い抜いてゆく。

次の船町渡船場へは鶴町の市街地を南へ抜けてゆく。途中コンビニに入って、握り飯と水を買ってばくつきながら歩く。南港地区を除けば、大阪港の一番南の場所である。都心からずいぶん離れているとの感覚なのですが、地図を見ると難波に近い。多くの人が港と共存して暮らしているのだと。ひっきりなしにバスが追い抜いてゆく。学生時代夏の1ヶ月工場実習で船町の造船所に大阪駅から市バスで30分だったかかけて、船町の工場に通ったときに、大正・泉尾・恩加島と大阪港の街中を抜け、工場街に入り、この鶴町の名前を知った記憶がある。船町もふくめ、街の記憶は全く薄れているが...



鶴町1丁目のバス停のところに船町渡船場の案内標識で南に折れてまっすぐ行くと船町渡船場 防潮堤に突き当たる。私の記憶では鶴町は工場街とあるのですが、四方を川と運河に挟まれ、防潮堤と港施設・工場が取り囲み、出口は北のみの大阪港南端に大阪の下町が広がっているのにびっくり。



千歳渡船場から20分ほどで、木津川運河を南に渡る船町側船町渡船場 2017.10.27. 13:31
目の前に木津川運河が流れ、対岸の船町は中山製鋼の鉄の街

【7】鶴町の南側 木津川運河沿いの船町渡船場

大阪港(北港)の最南端 船町に渡り、西船町からバスで大正区の中央へ戻り、木津川川沿岸へ





船町側 船町渡船場前の通り 2017. 10. 27. 工場地帯の昼下がり。人の姿は全くなし
一層確かめたかった日立造船船渠工場前。おぼろげにおぼえている。でも、中は全く記憶なし。
保安へ行って、工場概要をお願いしたのですが、なしと。日立造船の変貌と聞いて驚く工場も大きく
変わり、いまここに かつて校舎にあった研究所があると。
ここにあった建物の工場で実習しましたが、もう遠い過去に・・・



西船町のバス停前 2017. 10. 27. 13:48
道が十字に北へ折れる角に市バスが見える
大正駅前の標識にかつて通ったバスと昔のことがよみがえる



船町から大正区の大通りを北へ
大正区の東側を流れる木津川にある落合下・上の渡船場を巡りJR大正駅へ 13:52



Google photo



右側中山製鋼と書かれた建物
西船町バス停前

Google photo



東を木津川 西を釜無川に挟まれた細長い大阪北港の中心地大正区。
その南端 西船町から北の大正橋まで 大阪北港の中央を貫く大正通をまっすぐ北に
バスで向かう。学生時代 大正駅から西船町まで 工場実習で通った路線である。
北恵加島の平尾町のバス停で下車。
そこから東の木津川と大阪の市街地西成区とを結ぶ落合下・上二つの渡船場を巡り、
大正橋へ戻って、今回の大阪港渡船場巡りの終わりにする。
船町は人家がない中山製鋼の鉄の街 バスは鉄の工場群の中を北へ抜けてゆく



木津川運河にかかる大船橋 木津川運河の先に船町渡船場のあたりが見える



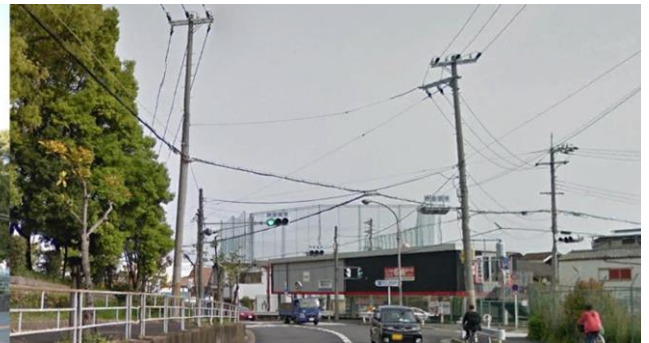
大正橋の交差点を過ぎ、南恵加島にはいり、平尾のバス停で降りて、
木津川へ向かって前方の横断歩道を渡り、平尾の街中へはいる。13:55

Google photo

【8】大正区の中央 平尾のバス停で降りて、大阪港の一番東側を流れる木津川へ
木津川を東の市街地西成区へ渡る落合下・落合上渡船場









大正区側 落合上渡船場のすぐ上流側に、左:三軒家川水門 右:木津川水門 2017.10.27.

【9】西の大正通りへ戻り、泉尾のバス停から JR 大正駅へ出て 大阪港の渡しwalk を終わる



大正区側 落合上渡船場から北へ 水門のあたりを見に行く

落合上の渡しも西成区側で下船せず、往復して大正区側から北へ 今回の大阪港渡船場巡りはこれで終わり。大通りにでず、木津川沿いに水門のあたりまで歩いて、それからJR大正駅に向かう。大阪港にある8の渡船場のうち6つをめぐることができました





三軒家水門の北で、西に折れて、街中を大正通 泉尾南の交差点に出て、
ここからバスでJR大正駅に向かいました



大正通 泉尾南の交差点に出て、ここからバスでJR大正駅に向かいました 2017.10.27, 14:50



大正通の渡し 渡船場通りの終着点 JR大正駅 2017.10.27, 15:05

一日大阪港の渡しを巡るwalk

大阪湾にそそぐ3つの川 西から東へ 安治川・尻無川・木津川の川筋に今も活動がつづく大阪北港。川筋と運河にはさまれた狭い島の中 周囲は川に面した岸壁に直結した工場街そして高架で島を渡ってゆく高速道そして大通り網が島の港の機能の中核を担う。しかし、その中央には多くの人たちが暮らす大阪の下町が今も健在である。ひっそりとした渡し船かと思いましたが、住人達たちの話し声が飛び交い、自転車ごと隣の島へ渡ってゆく。都心から遠く離れた南の離れ小島などの妄想はいっぺんに木々端みじんに。

そんな日常の島の暮らしを支え、街と街をつないできたのが、大阪港さん河川の渡しのネットワーク。一日中渡船も15分~30分間隔で運行され、都市内の市バスの運行間隔と変わらない。今も多くの人たちが行き来する。大阪港の渡し 全く飽きない楽しい渡し場巡りでした。

南港に港機能の主要部が移って、ドンドン疲弊しているのではと思っていましたが、元気な大阪内港の活動にもびっくりでした。また、鉄の街を見る機会がどんどん減って、寂しくなっていました。ひさびさに 活発に動く川筋にある鉄の街・工場を見ることもできました。ただ、造船所が次々、消えてゆくのはさびしい。

Walkの中で うっすら記憶にある地名が飛び出し、街中を歩けたのも収穫。

街で見かけるトラックの住所はこんな町だったんだなどなど。

親父がよく言っていた木津川沿岸 大正橋 三軒家 築港 天保山 安治川などの地名。

そして学生時代の記憶 鶴町・船町もしっかり見えました。安治川口から桜島 USJができてからの変貌そして天保山の変貌にもびっくり。

こっちはもう 浦島太郎でした。また、天保山にも登って三角点踏みそして日本丸・海王丸もみれました。

駆け足の大阪港の渡しwalkでしたが、一応予定通り、全部回れましたが、安治川の源平渡し代替地下歩道トンネルと消えた安治川の渡し群 築港ほか地名から見えてくる島々の埋め立てと港整備の歴史等々まだまだ面白いことがあると見える 大阪の渡しwalk。次回はまた別のまわり方をトライしたいと。

また、今回は歩けなかった大正橋から西九条への港地域の北側界限 また次の機会にトライしたいと。

知っているようで知らない街歩き。今回もまた、そんなうれしい街歩き。

私にとっては昔の記憶を呼び覚ます街歩きでもあり、うれしい私的な写真帳ができそう。楽しい一日でした。

環状線の窓から 大阪内港の船やアーチ型水門を眺めながら

2017.10.27.午後 Mutsu Nakanishi

アーチ型水門 河を閉じる水門はどこに 格納されているのだろうか？ 不思議で…………… 調べてみて やっとその疑問が解けました

アーチ型水門は実際に高潮から守るとき どんな風に閉まるのでしょうか？

巻き上げ機からワイヤーロープを繰り出し扉体を上流側に90度倒す

調べると皆同じで、安治川水門の場合の写真がありました



主水門閉鎖作業中



主水門完全閉鎖

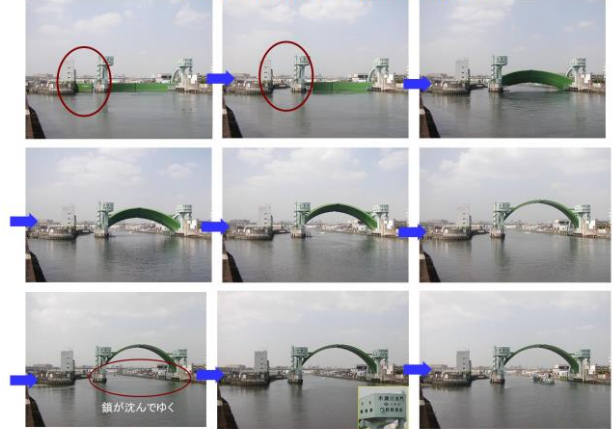


副水門閉鎖作業中



副水門完全閉鎖

《 木津川水門の閉鎖から開門までの例 》



<http://non-chan.sakura.ne.jp/Okkiimono/Okkiimon/VisorGate/VisorGate02.htm> より

大河 淀川にはアーチ型水門がないのに なぜ 大阪港の3河川にアーチ水門がいるのか？

大阪の港の3つの安治川・尻無川・木津川になぜ アーチ型水門があるのか、これらの川にはすべ
て高い防潮堤が張り巡らされているのに、なぜ 高潮対策の水門がいるのか??? と。
よくわかりませんでしたが、水門構造・水門閉鎖の作業・水門構造を知って、それが理解できました。

これらの川の奥に内港があり、数多くの
船が停泊している大阪。 高潮が発生し
て、川を遡る潮から川筋の岸壁にいる船
を守るのが主用途なんだと。

要は海岸の沖にある波けしブロックの役
割と同じで、川を遡る高潮のスピードを殺
すのが役割のようだ。

したがって、閉じられる水門は底にはつい
ておらず、海水表面から上へ出ている部分が重要なんだと。

川の水位上昇を抑えるのが主目的ではなく、川を遡る潮のスピードを落とし、急速な川の水位上昇
を緩和する目的だと。



したがって 狭い川筋に港がある大阪には重要な
なんだと。したがって 川幅の大きな淀川には防潮
堤は完備されているが、アーチ型水門はないのだと。

間違っているかな???



